



園だより

第7号

平成30年10月26日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

流行と不易

科学技術の発展は、私たちの生活をとて大きく変えていきます。特にIT技術の進化は、私たちの予測をはるかに越えるものとなっています。このような時代の中で、「時代の変化とともに変えていく必要のあるもの『流行』」と「時代を超えて変わらない価値のあるもの『不易』」をバランス良く取り入れていくことがとても重要になります。

例えば、この園だよりをはじめとする配布物も『流行』の一例です。私が幼稚園教諭になった頃は、印刷物はガリ版刷りで、鉄筆を使い一文字一文字をガリ版で切っていました。それが、三十年くらい前にワープロができ、さらにパソコンで原稿を作成するようになりました。文字を「書く」から「打つ」へと変わりましたが、いずれにしろ長い間「印刷」という過程を通して皆様に情報を配布していました。

しかし、今年度、本園では『流行』を取り入れて大きな改革を行いました。ICTシステム「コドモン」の導入により、「印刷」をしないペーパーレス化を図ったのです。保護者の方がスマートフォンやパソコンを使って、いつでも、どこでも園だよりをはじめとする園からの情報をご覧いただけるようになりました。迅速に情報を伝達できるだけでなく、より教育内容を理解していただけるようカラー写真も掲載できるようになりました。保護者からの連絡も、電話や連絡帳に加えて「コドモン」を活用していただけます。このように『流行』を取り入れたことにより、保護者の方との連絡・連携がより密になったと感じています。

一方、『不易』である、言葉を交わすことの大切や心温まる言葉の力を実感する機会がありました。年少児が初めて遠足から帰ってきた時のことです。遠足には副園長が引率し、私は園に残っていたのですが、A児が、「園長先生、遠足に行けなかったでしょう？楽しかったよ。今度一緒に行こうね。」と話し掛けてくれました。「良かったね。今度一緒に行こうね。」と答えながら、A児にとって遠足が楽しかったことを嬉しく思いました。さらに、楽しかった遠足に行けなかった園長を思って声を掛けてくれたA児の優しさが嬉しく、心が温かくなりました。

どんなに科学技術が進んでも、言葉や心を交わすことによって得るものにはかなわないと感じました。

11月には、担任と保護者が心を交わす場である保育参観・個人面談が行われます。今年度より、年中・年長児の保護者の方には、保育参観日を3日間とし、1回の参観人数を少なくして丁寧にお子様の様子を観ていただけるよう工夫しました。そして、同じ場面を観た担任とお子様の育ちや良いところ、課題などをお話いただけるように、個人面談を設けています。たくさん言葉を交わし、お子様の育ちを共感・共有していただきたいと思ひます。

『流行』と『不易』、それぞれの良さを取り入れながら、幼稚園と保護者が車の両輪となって、お子様を育てまいりましょう。どうぞよろしくお願ひいたします。

学習指導要領が改訂され2020年から、小学校ではプログラミング教育が必修となります。この『流行』を受け、本園では、駿台電子情報&ビジネス専門学校の先生から、プログラミング教育について学ぶ機会を設けました。

この研修から、これからの時代、パソコンを活用して情報を得たり、プログラミング的思考を育んだりしていくことはとても重要であると感じました。

それとともに、小学校以降の学習の基盤を育む幼児期の教育では、様々な実体験を積みながら学んでいくこと『不易』が重要であると改めて感じました。



粘土を丸めたり、ちぎったりくっつけたりしながら、作ったり、見立てたりして遊びます。



遠足で秋の自然に触れます。友達と一緒に小枝を集めたき火に見立てて遊んでいます。



遠足で拾ってきたドングリやマツボックリを使い、工夫しながら製作を楽しみます。